

# 人生ハンド仏句

第5号

H. 14. 8. 1

編集・発行  
山成寺  
玉真部  
編集部

たと、嘆く事は  
ないので。悲  
しければ悲しい  
程、苦しければ

## 苦しみこそ仏の慈悲である〔二〕

人生、苦があるから色々な事を  
学べます。苦しみは不可欠なの  
です。主婦の方はご存知でしょ  
うが、料理には隠し味と言うの  
があります。甘い汁粉の中にわ  
ざわざ塩を入れます。そうする  
と程々に甘くて美味しいので  
す。砂糖だけの汁粉は甘すぎて  
まずいのです。それから肉にも  
塩や胡椒がないと味が出ませ  
ん。西洋では中世に、東洋から  
絹と香辛料を金と同じ重さで  
交換しました。わざわざお金を  
出して買いました。「若い時の  
苦労は金を出してでも買え。」  
と言います。苦しみも又必要と  
言う事です。苦しむのはイヤな

のですが、スポーツと同じで、  
やってみる時は必死で、死にもの  
狂いでやります。でも激しくや  
るとその後の汗と言うか快感  
が良いのです。何もしないであ  
るの快感は絶対に得られません。  
厳しければ厳しい程、後で嬉し  
い。スポーツをやって涙を流し  
たり、抱き合って喜んでいるシ  
ーンを見ると、見ている方も感  
動してしまう、それが人生なの  
です。見ているのもいいですが、  
実際に自分で行ったら、もつと  
すばらしいと思います。

ですから自分の人生を振り  
返って見て、悲しい人生であつ

苦しい程、すばらしい体験をし  
た訳で、バラエティーに富んだ  
人生であったと思うべきで、最  
高の人生だと死んだ時に感ず  
るはず。型どおりに生きて  
も、世間のまねをしただけでは、  
自分の心は満足しません。私達  
は自分から苦しむと言う事は、  
中々出来ません。しかし苦しん  
だ後は、スポーツと同じでさわ  
やかなのです。生まれてきて良  
かった。それを生きている内に  
気づいて欲しいのです。今は苦  
しんでいるけれども、自分は自  
分にとって最高の修行をして  
いるのだと、決して不幸ではな  
い、すばらしい人生を送ってい  
るんだと。何時も希望と明るさ  
を失わないで欲しいものです。

住職 谷川 寛俊

施して

報いを願わず

受けて

恩を忘れず